

地域全体で「医療」を支える

地域医療連携の中での中央病院

〒5368

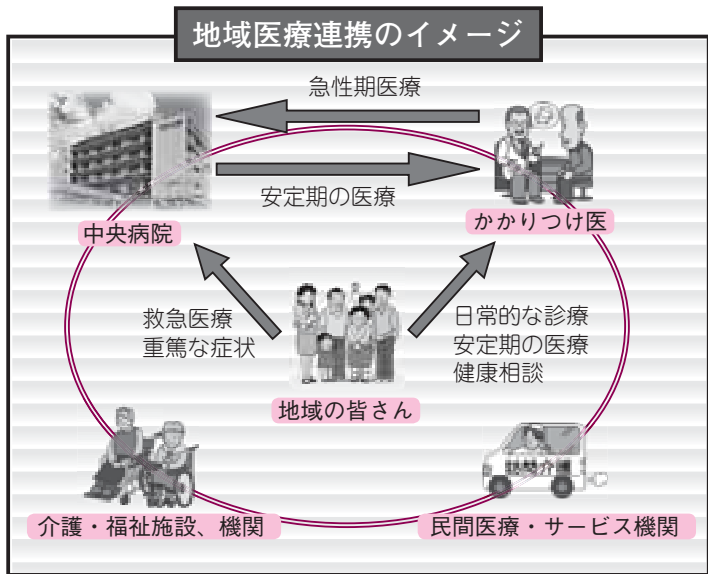
地域医療を救う「カギ」 地域医療連携

平成19年4月、日本の医療提供体制改革の指針が法律（医療法）として施行されました。高齢社会に適応できる医療システムをつくること、医師不足による地域医療の崩壊を防ぐことを最大の目標とするこの法律には、重点施策として、医療連携と在宅医療の推進があります。当院はこの国の方針のもとに医療体制を変えてきました。

特に、地域内の医療機関（かかりつけ医）との密接な連携のもとで診療を行うことは、病院医師の過重労働の軽減につながり、医師の離職を防止する意味で重要と考えています。**地域医療連携**は、地域医療の崩壊の重要な打開策であり、その心は**地域医療全体で医療を支えよう**です。

地域医療連携の中での中央病院の役割

中央病院は、地域医療の中核となり住民の強い支えになるため「生活する人間の視点」に立った、安全で質の高い医療を効率よく提供することや、医療・介護・福祉との密接な



連携をはかり、急性期から回復期、そして在宅医療まで切れ目のない医療提供体制を地域の医療・福祉関係者との連携により確立していくことが大きな役割となっています。また、上十三医療圏の中核病院として、質の高い医療を提供するために、情報の発信、地域医療連携の構築、市民向けセミナーの開催、医療・福祉従事者向けの勉強会など数多く企画し執り行い、地域住民のかたへきめ細かい医療を提供できるように努めています。

高齢社会を迎えた我が国では、2025年には寝たきり状態の高齢者が230万人に達し、そのうち5〜10人に一人の割合で褥瘡じよくそうが発生するといわれており、褥瘡は深刻な社会問題として注目されています。

褥瘡は「床ずれ」ともいわれ、一般的に寝たきりのお年寄りにおこる症状と思われがちですが、麻痺や知覚障害などで長時間同じ姿勢でいることや、体を動かしたときの摩擦やずれにより、発生することがあります。

褥瘡が悪化すると、皮膚の組織が壊死を起し、骨や関節にまで及び、骨髄炎や関節炎、感染を起すことで敗血症を併発する重篤な状態に至ることがあります。

中央病院褥瘡対策チームは、地域内での褥瘡予防、ケアの向上を図るために活動しています。褥瘡発生にはさまざまな原因があるため、専門的知識を持った皮膚科・整形外科・総合診療科の各医師と皮膚・排泄ケア認定看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、臨床検査技師と多職種スタッフが連携し、原因の分析や早期治療、予防対策を行っています。

～褥瘡（床ずれ）対策チーム～

看護ケア支援室 ☎ 5121（内線7558）

褥瘡対策で一番重要なことは予防です。予防には、「除圧」、「スキンケア」、「栄養を整える」とが必要で、院内では全館において低反発の体圧分散効果のあるマットレスを導入、高機能エアマットレスや褥瘡対策用マットレスを常備しています。



▲高機能エアマットレスや褥瘡対策用マットレスを準備。患者さんの状態に合わせて使用しています。

また、皮膚は乾燥していると傷がでやすいため、清潔を保ち、保湿クリームを使用するなどのスキンケア推進活動を行っています。さらに、栄養状態が悪いと皮膚が脆もろくなりトラブルを起しやすくなるため、栄養サポートチーム（NST）とも連携、積極的に褥瘡を防ぐための活動をしています。

中央病院のチーム医療！

